

平成30年度 延岡市立旭中学校 学校関係者評価書

段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標 確かな学力を育む 豊かな心を育む 健康・安全・食育・体力づくりを推進する 夢・自信・誇りを育む

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	記階	外部階	学校関係者評価コメント
確かな学力を育む	1 分かる授業、生徒が主体的に学ぶ授業の工夫、個別のニーズに対応したきめ細やかな指導	・校内研修を充実させ、4つのポイントを意識した授業改善に取り組むことが、おおむね達成できた。教師相互の授業参観も充実し、教科の垣根を越えた改善ができた。諸学力検査でも、県の平均を上回っている。生徒のアンケートも68%でほぼ目標を達成している。	3		・学力は、先生方の熱心な指導により、市内中学校の上位レベルまで押し上げた実績を高く評価いたします。 ・教科書を始め、宿題や授業に必要な七つ道具を忘れる生徒の多さに驚く。保護者がこの状況をどれほどつかんでいるのか疑問である。 ・先生に対する要望が多いようです。昔とちがいが、教師と保護者、教師と生徒の信頼関係になんらかの変化が現れていると思います。 ・はげまし隊の活躍は評価に値します。 ・読書は重要な学習教材の位置づけと考えています。 ・限られた教科しか見ていないが、先生方が授業を工夫されているのがわかる。ただ、生徒側の理解度、主体性は個人差が大きいに思う。 ・学習習慣は家庭環境が大きく影響すると思うので、保護者に働きかけしっかり連携をとって必要がある。 ・小中連携を続け、9年間の長いスパンで児童生徒を育ててほしい。また、これからははげまし隊を大いに活用してほしい。 ・読書の推進向上は、読書をしたくなる工夫がなされた結果だと思ふ。 ・いろいろな面で、小一校、中一校であることが功を奏しているのかもしれない。今後も小中連携を実施してもらいたい。 ・4月より、「学校の働き方改革」が実施され、現場教師の業務時間の制約を受けるが、さらに確かな学力を育成する教育に取り組んでほしい。
	2 学習規律、家庭での学習習慣の確立	・生徒会学習委員会による活動の取組はよく、落ち着いた授業態度は本年度も変化なかったが、家庭学習についてはまだ意識が低い。 ・家庭学習については、生徒のアンケート結果でも59%で十分な意識向上に至っていない。家庭との連携が必要。	3	3	
	3 小中教師間の連携、教科の連携、地域との連携(はげまし隊 等)	・小中合同の研究授業は、計画通りに実施できた。また、小中9年間の共通実践事項については、合同研修会を中心に意見交換をし、検討することができた。はげまし隊についても、教科担任との連携を深め充実することができた。特に英語は全学年で実施し充実した。	4		
	4 読書活動の推進	・年間読書冊数は、昨年度より目標を高くした。結果、図書室の読書冊数は2,500冊を超え、十分目標を達成した。ふれあい文庫は、数学的には届かなかったが、よく活用された。	4		
豊かな心を育む	1 あいさつ、返事の徹底等、社会生活の基盤となるルールやマナーの育成	・生徒のアンケートでは、肯定的な回答が90%に達し、保護者も概ね良好の結果がでている。 ・学校外でのあいさつ習慣については、今後も気をつけていく必要がある。	3		・あいさつ運動は数年前に比べて良くなっていると思うが、上級生になるにつれて意識が低くなっているのでは。 ・あいさつはこちらから声をかけると返ってくるが、やや消極的か。 ・自分の心とからだを大切に、家族や友人をはじめとして他人を思いやる心を持てるように、これからも教育してほしい。さまざまな家庭環境があるだろうが、粘り強く保護者と連携をとってほしい。 ・福祉教育については、知識やスキルを得るだけでなく、実生活にしっかり結びつけてほしい。 ・九州保健福祉大学に行つての福祉教育はよいと思ひます。学んだことを、地区で実践することも考えてみてください。
	2 自尊感情、人権意識の醸成、豊かな人間関係を築くためのスキルの醸成	・人権教育は計画通り実施できた。いじめ等のアンケートの結果、認知数が21人いた。肯定的なアンケートは87%だった。	3	3	・地域参加型の行事に、校区内全ての地域住民が参加しているようには見えない。学校の広報活動に問題があるとは思わないが、区長会等との連携をもっと密にしてほしい。
	3 自ら考え、判断し、行動する主体性のある生徒の育成	・いじめについては、今後も引き続き無くすように努めて行く必要がある。 ・行事等には生徒が主体的に取り組むことができた。アンケート結果は79%であったが、ほぼ達成できた。	3		
	4 福祉教育の推進	・1年で福祉疑似体験、2年で高齢者理解、3年で九州保健福祉大学訪問と、全学年で実施できた。	3		
健康・安全・食育 体力づくりを推進する	1 体力や運動能力の向上(運動の日常化、部活動の奨励)	・A判定の生徒は、昨年と比較し男子は変化無かったが、女子が減少していた。また、部活動の加入率は昨年より多く、運動に対する意識は向上している。 ・新体力テストについては、基礎能力を向上するよう努力していく。	3		・生徒数は少ないが、部活動において市内のトップクラスの活躍は賞賛に値していると思う。 ・部活動の加入率はそこまで気にしなくてもよいのでは。まずは、中学生の時期に必要な栄養や睡眠、運動など、生活習慣を整えることが第一と思う。 ・防災学習については、当たり前のこととして、これからも続けてほしい。学校と地域がつながるよい機会でもある。生徒も地域住民の一人という意識が持てると思う。 ・食品ロスへの関心も促してもらとうありがたい。 ・部活動に対する県の意向もあると思うが基礎能力の向上に励んでもらいたい。 ・お弁当の日の実施は、親子のつながりや祖父母とのつながりもあり、とてもよいことだと思う。 ・部活動の外部指導者導入の効果も検証してみてください。また、ほめて伸ばす指導が重要と思ひます。
	2 規則正しい生活をするための自己管理等、保健教育の推進	・生徒のアンケートからは、81%の達成であった。	3	3	
	3 安心・安全な学校づくり、安全教育の推進	・地域防災学習を始め、地区の防災やシエイクアウト訓練に参加し、安全意識を高めた。生徒のアンケートも90%をこえ、良好。	4		
	4 食への関心と実践力をもった生徒の育成	・本年度も、栄養教諭との連携を深め、食育指導、お弁当の日の設定等の取組により充実できた。	3		
夢・自信・誇りを育む	1 キャリア教育の充実(国際理解教育の推進)	・総合的な学習の時間、旭祭での発表等の活動や、外部講師の講演等で、キャリア教育の充実が図られた。国際理解では、JICA 作文で全国入賞するなど成果があった。	4		・校長先生が発行している「学校だより」は学校行事や保護者及び地域とのつながりなどが記載され、毎月楽しく拝読させていただいており今後も継続していただきたい。 ・外部講師の講演など積極的に進んでいるが、案外地元の企業の事業内容を知らない。市内の企業や工場見学や出前授業などの協力を要請してはどうですか。 ・体育大会での「防災リレー」やばんぱ踊りもよかった。 ・いろいろな講演は、社会のこと世界のことを、いろいろな立場の人の話を聞いて学べることは良い。また、学んだことを発表する場もこれこれとどんどん設けてほしい。 ・生徒会の活動で、三年の階段の踊り場の壁に三年生を応援する掲示がしてあり素晴らしいと思ふ。 ・地域行事に積極的に参加して、手伝いをしてくれる生徒達がいることに有り難いと思ふしうれしい。これからも生徒達が地域の行事に参加したり、学校においても地域の人と交流する機会を設けてほしい。
	2 生徒会活動、委員会活動の活性化	・昨年度よりも生徒会活動が積極的に行われ、自主性をもった活動が一層充実してきている。	4	3	
	3 ボランティア活動、地域への貢献活動の推進	・3年生を中心に自主的なボランティア活動参加が増え、地域に貢献もできた。 ・アンケートの結果、1、2年の意識が低く、今後参加を促す必要がある。	3		
	4 ふるさと教育の推進(地域に根ざした伝統行事の継承や地域人材の活用)	・体育大会でばんぱ踊りを実施。また、エンジセンカイの実施や、行事、総合的な学習の時間等で多くの地域人材を活用することができた。	4		

[次年度の方向性についての校長所見]

今年度、学力向上については、教師の授業力向上を高めるため、県教育委員会が示す「授業改善の4つのポイント」を意識して研究を進めていった。教師の相互の授業参観により、各自の授業の取組のよいところを共有し、結果、授業力の向上につながっていくことができた。今後も研究を深め、結果を出していきたい。また、昨年度の懸案であった福祉教育を、本年度は全学年で実施することができた。次年度もこれらの反省を含め、引き続き「学力向上」「基本的生活習慣や道徳面の指導」「福祉教育」等に取り組むたい。また、「不登校」に対する問題もしっかりと対応し、安心・安全な学校を目指したい。